

『共に語ろう！歯科技工士のこれから』

公益社団法人日本歯科技工士会

会長 杉岡 範明

「健康は歯から」と言われるように、以前にも増して、医療の中で「専門的口腔ケア」の重要性が高まっている。特に最後まで自分の口で食べることが、QOLに欠かせない要件でもある。

現在の歯科医療は、歯科医師と歯科衛生士、そして歯科技工士の連携によって行われるが、その歯科技工士の高齢化と若年層の減少傾向が話題になり、このままでは、歯科医療の連携が危ぶまれるとの報道もある。

一方、CAD/CAM装置等デジタル技術の歯科技工への応用によって、これまでの手技を中心としてきた業務の効率化の可能性も伺える。また、エプテーゼや人工乳房等の需要に対応する職域拡大も話題になることから、社会環境の変化に、歯科技工士が医療関係従事者として誇りと責任を抱いて、歯科医療及び口腔保健等の増進にどのように寄与していくか、一人ひとりがしっかりと考えていかなければならない。

歯科技工士のナショナルセンターである日本歯科技工士会も日技新発展『7』プランを発表し、組織の新たな価値創造を目指している。

間もなく、創立63周年を迎える今こそ、明るい未来を求めて、歯科技工士のこれからを共に語ろう。